

第2章

第2期さっぽろ未来創生プランの評価

第1節 第2期さっぽろ未来創生プランの概要

- 令和2年(2020年)に策定した第2期計画では、「結婚や出産を望む市民の希望を実現していく」、「人をひきつけ、住み続けたい魅力を出していく」を基本的方針とし、「質の高い雇用創出と魅力的な都市づくり」、「結婚・出産・子育てを支える環境づくり」の2つの基本目標を定め、計画に基づく各種取組を進めてきました。
- 第2期計画の推進に当たっては、数値目標及びKPI(重要業績評価指標)の達成状況、主な取組内容について、毎年度「さっぽろ未来創生プラン推進有識者会議」及び「札幌市議会」に報告し、点検・評価を行ってきました。

第2期計画の総合戦略の枠組み

① 基本目標

基本的方針の実現に向け、2つの基本目標とそれぞれに3つの柱を設け、様々な施策を幅広く提示

② 未来創生重点プロジェクト

「さっぽろ」の魅力を高めるため、関連性のある施策を意識し効果的に取り組むため、特に重要となる3つの施策群を提示

基本目標1 質の高い雇用創出と魅力的な都市づくり

- (1) 産業の基盤づくりと競争力強化
- (2) 働きやすい環境づくりと人材育成・確保
- (3) 行きたくなる・暮らしたくなる魅力づくり

基本目標2 結婚・出産・子育てを支える環境づくり

- (1) 子どもを育てる世代への切れ目のない支援
- (2) 子育てを支える地域社会の形成
- (3) 子どもが健やかに育つ環境の充実

未来創生 重点プロジェクト

① 「さっぽろで働く」を支援

② 子育て環境の充実

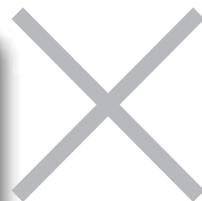
③ まちの魅力アップ

第2節 プランの推進について

- 第1期計画から市長を本部長とする「札幌市人口減少対策推進本部」を設置し、組織横断的にプランを推進してきました。また、産官学金労言士*から構成する「さっぽろ未来創生プラン推進有識者会議」を毎年度開催し、「数値目標」及び「KPI」等の進捗管理を行うとともに、有識者や議会からの意見も取り入れつつ、施策の効果を検証し、必要に応じて取組内容を見直してきました。
- 平成29年(2017年)には、「北海道・札幌市行政懇談会」において、人口減少問題に関し道市の更なる連携を目指すことが北海道知事と札幌市長の間で合意され、道市の主要部局で構成する「人口減少問題対策協議会」において課題等の整理や有識者からの意見聴取を含め、有効な連携手法などについて意見交換を重ね、平成30年(2018年)に「北海道と札幌市の連携による人口減少対策共同プログラム」を策定しました。
- 上記共同プログラムに基づく取組、情報共有等を重ねながら、道市の連携を強化することで、北海道全体の人口減少の緩和にも取り組んできました。また、本市の都市機能を活用した取組を行うなど、道内市町村との連携も第1期計画から引き続き着実に進めてきました。

北海道と札幌市の連携による 人口減少対策共同プログラム

北海道
第2期北海道創生総合戦略*

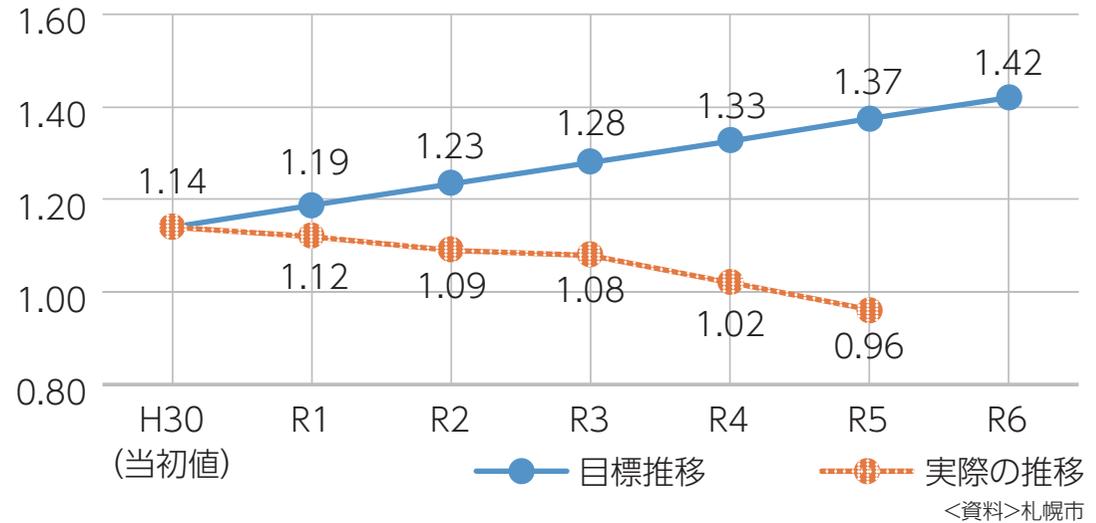


札幌市
第2期さっぽろ未来創生プラン

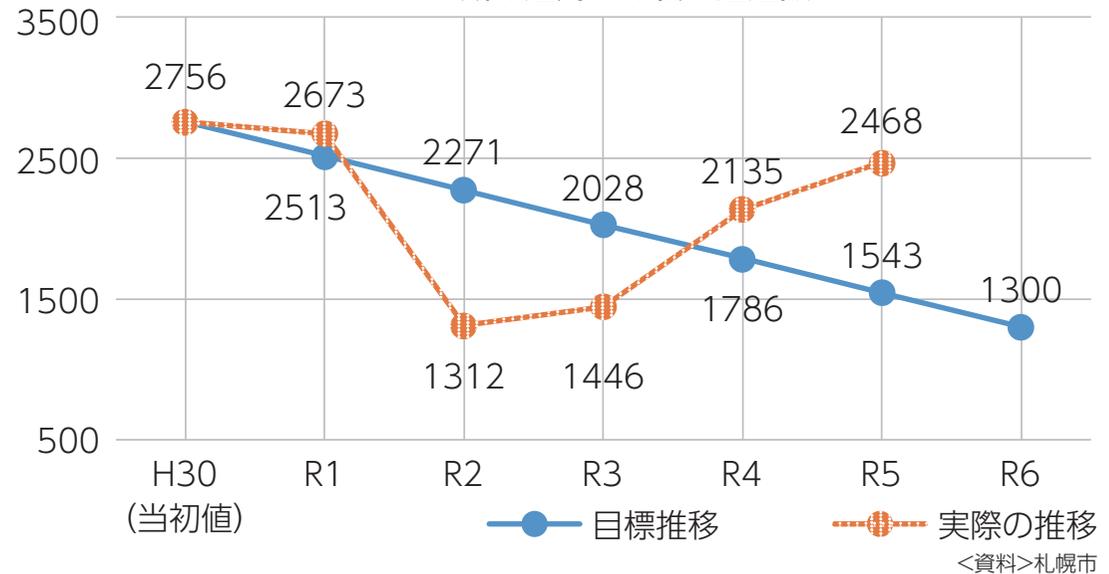
第3節 数値目標の達成状況

- 第2期計画では、第1期計画に引き続き、基本目標の達成度を測る2つの数値目標として、「合計特殊出生率*」と「20～29歳の道外への転出超過数」を設定しています。
- 「合計特殊出生率」は、当初値から減少が続いています。要因としては、未婚・既婚非出産*などが進み、出生数の減少傾向が続いていることがあげられます。
- 「20～29歳の道外への転出超過数」は、令和2年、3年と減少し、一旦、目標値に近づきましたが、減少の要因が新型コロナウイルス感染症の感染拡大により人の移動が抑制されたことによるものであったと考えられ、抑制が緩和された、令和4年以降、当初値の水準に戻りつつあります。

合計特殊出生率



20～29歳の道外への転出超過数



第4節 KPI(重要業績評価指標)の達成状況

- 基本目標1に設定したKPIは、AとBを合わせると53%となっています。
- 目標を達成しているもの(A)は、「PR活動等により立地した企業数」、「バイオ産業の売上高」、「IT・コンテンツを活用しようとする企業の割合」など6件となります(詳細は次頁参照)。

KPIの評価	基本目標1 「質の高い雇用創出と魅力的な都市づくり」	
A	6件	29%
B	5件	24%
C	10件	47%
合計	21件	100%

※A:目標を達成している B:目標達成に向けて改善している C:当初値より悪化している

- 基本目標2に設定したKPIは、AとBを合わせると60%となっています。
- 目標を達成しているもの(A)は、「希望に応じた保育サービスを利用できた人の割合」、「保育所待機児童の解消」、「ひろば型子育てサロン*における年間相談件数」の3件となります(詳細は次頁参照)。

KPIの評価	基本目標2 「結婚・出産・子育てを支える環境づくり」	
A	3件	30%
B	3件	30%
C	4件	40%
合計	10件	100%

※A:目標を達成している B:目標達成に向けて改善している C:当初値より悪化している

第2章 第2期さっぽろ未来創生プランの評価

基本目標1 質の高い雇用創出と魅力的な都市づくり

指標	当初値	最新値	目標値	評価
PR活動等により立地した企業数(累計)	- ※当初値なし	106社 (R5年度)	75社 (R6年度)	A
開業率(雇用保険適用事業所ベース)	4.8% (H30年度)	4.2% (R5年度)	6.0% (R6年度)	C
食料品製造業の製造品出荷額	2,419億円 (H29年度)	2,413億円 (R3年度)	2,700億円 (R6年度)	C
バイオ産業の売上高	527億円 (H30年度)	1042億円 (R4年度)	730億円 (R6年度)	A
新製品・新技術の開発や新分野進出に取り組むと答える企業(製造業)の割合	57.3% (H30年度)	61.9% (R5年度)	65.0% (R6年度)	B
IT・コンテンツを活用して高付加価値をつけようと思っている企業の割合	22.2% (H30年度)	39.5% (R5年度)	33.0% (R6年度)	A
グローバル化への取組を行っている企業の割合	11.7% (H30年度)	5.6% (R5年度)	45.0% (R6年度)	C
仕事と生活の調和がとれていると思う人の割合	47.1% (H30年度)	39.6% (R5年度)	70.0% (R6年度)	C
札幌市ワーク・ライフ・バランスplus認証※企業数	328社 (H30年度)	1,001社 (R5年度)	800社 (R6年度)	A
女性相談窓口の新規登録者のうち、就職活動に結びついた人数	471人 (H30年度)	778人 (R5年度)	1000人 (R6年度)	B
市内新規学卒者の道内就職割合	58.4% (H30年度)	56.0% (R5年度)	65.0% (R6年度)	C
20～29歳の首都圏からの転入者数	3,706人 (H30年)	3,812人 (R5年)	4,000人 (R6年)	B
年間来客数	1,585万人 (H30年度)	1,311万人 (R4年度)	1800万人 (R6年度)	C
国際会議の開催件数(暦年)	116件 (H29年)	23件 (R4年)	130件 (R6年)	C
札幌市内での総観光消費額	5780億円 (H30年度)	3,195億円 (R4年度)	7,000億円 (R6年度)	C
ウィンタースポーツ実施率	21.0% (H30年度)	20.9% (R5年度)	25.0% (R6年度)	C
主要文化芸術施設の利用者数	1,852,823人 (H30年度)	1,653,953人 (R5年度)	2,310,000人 (R5年度)	C
観光地としての総合満足度(「満足」と回答した人の割合)	26.8% (H30年度)	32.7% (R5年度)	40.0% (R6年度)	B
避難場所運営研修への地域住民の参加人数	366人 (H30年度)	1,038人 (R5年度)	900人 (R6年度)	A
札幌駅交流拠点内の再開発に係る都市計画決定件数(累計)	1件 (H30年度)	3件 (R5年度)	3件 (R6年度)	A
燃料電池自動車※・電気自動車の市内普及台数	582台 (H30年度)	1078台 (R4年度)	1,200台 (R6年度)	B

基本目標2 結婚・出産・子育てを支える環境づくり

指標	当初値	最新値	目標値	評価
子どもを生み育てやすい環境だと思う市民の割合	50.9% (H30年度)	38.5% (R5年度)	80.0% (R6年度)	C
希望に応じた保育サービスを利用することができた人の割合	67.3% (H30年度)	84.1% (R5年度)	80.0% (R6年度)	A
保育所等待機児童数	0人 (R1年度)	0人 (R5年度)	0人 (R6年度)	A
仕事と生活の調和がとれていると思う人の割合【再掲】	47.1% (H30年度)	39.6% (R5年度)	70.0% (R6年度)	C
「父親と母親がともに子育ての担い手である」と答えた保護者の割合	47.6% (H30年度)	52.6% (R5年度)	60.0% (R6年度)	B
ひろば型子育てサロンにおける年間相談件数	2,447件 (H30年度)	4,312件 (R5年度)	3,000件 (R6年度)	A
難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している子どもの割合	小5 77.3% 中2 71.4% 高2 66.2% (H30年度)	小5 69.6% 中2 63.0% 高2 63.6% (R5年度)	小5 78.0% 中2 72.0% 高2 67.0% (R5年度)	C
将来の夢や目標をもっている子どもの割合	小5 85.2% 中2 68.2% 高2 75.0% (H30年度)	小5 75.3% 中2 67.7% 高2 70.0% (R5年度)	小5 86.0% 中2 72.0% 高2 76.0% (R5年度)	C
近所や地域とのつながりがある子どもの割合	47.8% (H30年度)	57.0% (R5年度)	60.0% (R6年度)	B
いじめなどの不安や悩みを身近な人などに相談する子どもの割合	小 93.5% 中 88.1% 高 87.9% (H30年度)	小 94.2% 中 90.5% 高 94.2% (R5年度)	小 96.0% 中 90.0% 高 90.0% (R5年度)	B

第5節 第2期計画の総括

- 計画期間の大半が新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況であったことから、計画の推進をはじめ数値目標やKPIの達成状況に相当程度影響を与えていたものと考えられます。
- 数値目標は「合計特殊出生率」が減少傾向、「20～29歳の道外への転出超過数」が横ばいで推移しているとともに、KPIが当初値よりも低くなっているものがみられます。
- 基本目標1・2全体としては、目標を達成しているものや当初値から数値が改善しているものが多く、当初値から悪化しているものにおいては上昇傾向に入っているものも見られ、徐々に新型コロナウイルス感染症の感染拡大以前の状況を取り戻しつつあるものと推察します。



第3期の計画策定に当たっては、効果が表れているKPIに関する部分については、札幌の強みとして更に充実・強化し、効果が表れていないKPIに関する部分については、実施方法の見直しや新たな取組を行うことはもとより、「第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン」に掲げた人口減少緩和プロジェクトの「若い世代へ向けたアプローチの強化」という観点などを取り入れ、切れ目のない人口減少の緩和に取り組めます。